

H28 年次 選択科目Ⅲ-1 現在、農業の生産性との調和などに留意しつつ、環境に対する負荷の軽減に配慮した環境保全型農業が、国も直接支払制度を設けて支援するなどして、全国的に推進されている。以下の問いに答えよ。(1) 環境保全型農業を推進するにあたり検討すべき課題を多様な観点から挙げて、その内容を慣行農業と比較しつつ述べよ。(2) 上述した検討すべき課題に対して、あなたが最も重要と考える技術的課題を1つ抽出し、それを解決するための技術的提案を示せ。(3) あなたの技術的提案がもたらす効果を示すとともに、そこに潜む負の効果(リスク)についても論述せよ。(3枚以内 横 24×25 600\*3 1800字以内)

(1) 検討すべき課題

農業者が環境保全型農業に取り組むための課題としてよく耳にするのは、労力がかかることの見解が最も多い。続いて、収量や品質の不安定さや資材コストがかかること、期待する販売価格水準となっていないこと等を挙げている。

一方、慣行農業では、農薬の使用による、病虫害防除や品質の安定が可能である。また、化学肥料の使用により、地道な土作りが不要となる。これらはコスト削減につながることから、販売価格が抑えられても収益が確保できる。

他方、有機栽培等では約7割の農業者が販売価格に満足しているとの報告もあり、このことは、農業生産で労力や資材コスト等がかかっても、それに見合った販売価格を確保すれば、環境保全型農業に取り組もうとする農業者が増えることを示している。

(2) 重要な課題

a) 重要な課題

有機栽培も環境保全型農業同様に、労力、資材コスト等を必要とすることを考えれば、環境保全型農業の推進のボトルネックとなるのは販売価格である。

このことから、環境保全型農業を推進する重要な課題として、生産品を如何にして高く売ることが挙げられる。

25 b) 技術的提案

技術的提案として、環境に配慮した農産物の生産者と実需者のネットワークの構築等により、多様な販路の構築等を推進すべきである。具体的には、

30 ①消費者理解を重視した販売展開

消費者に「商品特徴を知ってもらい、理解していただく」ことに重点を置き、「分かりやすく、説明しやすく、思い出し、伝えられる」販売活動を展開する。

②販路開拓を重視

35 単純に直販施設で売るだけでなく、多品種栽培や他の生産者がつくっていない野菜など、特色を出す生産によるリピーターの獲得や、直販施設と連動したイベント開催等により、消費者と生産者の数のバランスを考えた集客を図る。

40 ③顔の見える販売

生産者、産地が明らかであること、生産方法や出荷基準が明らかで生産履歴がわかることなど顔の見える販売戦略により、購入者の信頼を確保する販売戦略の展開をすべきである。

45 (3) 技術的提案の効果

a) 効果

購入者との信頼関係が構築されることにより、仲買等を通さない直接取引が展開され、相対で値段を決め

られることや販売手数料が不要になるメリットが期待できる。相対取引では、生産者の価値観に基づいた価格設定が提示できることで、利益率が向上し環境保全型農業を継続するモチベーションにつながる。また、販売手数料が不要になることでも利益率が向上し、同様に環境保全型農業を継続するモチベーションにつながるものである。

b) リスク

国内は、本格的な人口減少社会に突入した。このことは、国内市場が縮小リスクを抱えたといえる。

このことは、環境保全型農業が拡大し、生産量が向上しても需要が減少すれば、市場原理で価格は下落し、収益は当然落ちていくリスクも抱えたことになる。

このことから、将来を見据えて市場を海外に展開することも検討すべきである。そのためには、環境保全型農業と農業生産工程管理(GAP: Good Agricultural Practice)とタイアップした農業生産活動を導入するなど付加価値の積み上げに取り組んで行くべきである。

- 以上 -